

SOC200 社会学概論

2年 1,2クォーター

担当教員 伊藤 勇

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 木曜日・5時限

授業概要

「個人と社会」あるいは「個と集団」の捉え方をはじめとする社会学の根本的視角やそれに関わる基礎的諸概念、また理論・学説と実証研究との関係などの基本事項について、シカゴ学派、現代のシンボリック相互行為論（S I）、および日本農村社会学における代表的な学説や調査研究の実例に即して学び、基礎的理解を得る。

到達目標

- ・「個人と社会」や「個と集団」に関する社会学の捉え方について基礎的理解を得る。
- ・社会学における理論・学説と実証研究との相補的關係を理解する。

先修科目

- ・社会学A（相互行為論入門）
- ・社会学B（現代農村の社会学）
- ・リサーチ入門（J）
- ・国際地域概論

教科書・参考資料等

教科書：特に指定しない。適宜、参考文献や資料を配付する。

参考書：中野正大・宝月誠（編）『シカゴ学派の社会学』世界思想社、
船津衛・宝月誠（編）『シンボリック相互作用論の世界』恒星社厚生閣、
鳥越皓之『家と村の社会学<増補版>』世界思想社、
日本村落研究学会（編）『むらの社会を研究する』農文協など。

授業の方法

講義形式の授業だが、一方通行の授業を避けるため、受講者全員に毎回短い感想メモを提出してもらう。

成績評価

成績評価には、①毎回提出する授業の感想メモ、②中間レポート、③期末レポート、計3種類の提出物を用いる。

成績

修学態度（①）	20%
中間レポート（②）	30%
期末レポート（③）	50%

授業スケジュール

第1回：ガイダンスおよび序論

授業の概要・進め方・成績評価法の説明

序論：社会学の定義、研究対象、研究諸部門、理論と実証

第1部 「個人と社会」／「個と集団」の捉え方

第2回：シカゴ学派・S Iにおける「個人と社会」（1） G. H. ミード

基点としての相互行為・コミュニケーション、自我・精神の社会的発達、
「一般化された他者」と個人、自我・精神と集団活動の相即的展開

第3回： シカゴ学派・S Iにおける「個人と社会」(2) W. I. トマス

「価値」と「態度」, 「状況の定義づけ」, 「社会解体」と「創造的人間」, 社会の再組織

第4回： シカゴ学派・S Iにおける「個人と社会」(3) H. ブルーマー

シンボルを介した相互行為過程としての社会, 意味の社会性と主観性, 「共同活動」と個人

第5回： シカゴ学派・S Iにおける「個人と社会」(4) E. ゴフマン

ドラマとしての社会, 他者との共在と相互行為, 相互行為秩序の維持と攪乱

第6回： 日本農村社会学における「個と集団」(1) 鈴木栄太郎

社会的諸関係の統一体としての村落, 「村の精神」と村人, 「家(家協同体)」と成員

第7回： 日本農村社会学における「個と集団」(2) 有賀喜左衛門

村落と「家」および「家連合」, 生活保障組織としての「家」と成員

第8回： 日本農村社会学における「個と集団」(3) 菅野正・田原音和・細谷昂

『東北農民の思想と行動』および『農民生活における個と集団』の調査知見から

第2部 理論と実証の往還

第9回： シカゴ学派・S Iにおける理論と実証(1)

R. E. パーク&E. W. バージェスの都市論とシカゴ調査

第10回： シカゴ学派・S Iにおける理論と実証(2)

W. I. トマス&F. W. ズナニエツキ『ポーランド農民』における理論と実証

第11回： シカゴ学派・S Iにおける理論と実証(3)

A. L. ストラウス「データ対話型理論」と病院調査

第12回： 日本農村社会学における理論と実証(1)

鈴木栄太郎の岐阜農村調査と自然村理論

第13回： 日本農村社会学における理論と実証(2)

有賀喜左衛門の石神調査(モノグラフ)と家連合理論

第14回： 日本農村社会学における理論と実証(3)

菅野・田原・細谷の庄内調査と方法的視角

第15回： 「個と集団」・「理論と実証」まとめ

シカゴ学派・シンボリック相互行為論・日本農村社会学に貫く社会学の視角と方法態度
期末レポートの課題説明

事前・事後学習

- ・ 予習：教科書および参考資料の該当する章を予習しておくこと(1時間程度)。
- ・ 復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること(1時間程度)。